

林病院OB会

忘年例会を開催

支え合う仲間

第2号

発行
林病院OB会

発行責任者

浅口市金光町八重190-1
加賀 純雄
TEL090-9410-3593



令和2年度忘年例会集合写真

昨年末十二月二十七日(日)に岡山東公民館に於いて、令和二年度林病院OB会(以下OB会)忘年例会が新型コロナウイルス感染症対策をとった上で開

催されました。心光育宣会長(当時)の司会進行で、テーマ「今年の一年を振り返って」でした。祈念黙祷を木村啓紀さん(御津赤磐支部)が行い、断酒の歌、断酒の誓い(全員)と続きました。体験発表の前に心光育宣さんの挨拶があり、「皆さんの協力に

よりこの忘年例会が開催出来た事が大変ありがたく思います。コロナに負けない様に、かからない様にお互いに気を付けて頑張りましょう。」(要旨)等のお話がありました。続いて体験発表に移りました。令和二年度はコロナの影響で三月頃から院内例会も、OB懇談会も開催出来ず、通常の例会も中止や制限された一年でした。一年を振り返って皆さん真剣にお話されていました。尚、前述の木村啓

紀さんが当日OB会に入会されました。一緒に断酒継続頑張りますよ!!。

続いて、令和二年度のOB会総会が行われました。はじめに心光育宣さんより令和元年度会計決算報告書が読み上げられ、会計監査より監査報告が行われ承認されました。次に、加賀純雄さんより新役員改選(案)及びOB会規約一部改正(案)について提案がされ、いずれも承認されました。その結果当日(十二月十七日)より新しい役員会が発足する事になりました。終わりに、会長交代にあたって、心光育宣さんのお話、新会長・加賀純雄さんのお話がありました。(別掲に新会長挨拶と体験談)

その後、本来ならば皆さんで美味しい昼食をいただきながらの歓談、その後ゲーム等で楽しいひと時を過ごしていたく事になるのですが、今回は新型コロナウイルス感染症対策上やむを得ず簡素化し、昼食は各自持ち帰っていただく事になりました。コロナ禍が落ち着き、通常の例会や院内例会、それに諸行事等が正常に行える日が来る事、仲間の皆さんの健康を祈りつつ閉会しました。



総会も行われました

私は、林病院入院の一ヶ月前、脑梗塞で地元の病院に入院し、仕事復帰の前日酒を飲んでいて意識が無くなり救急車で林病院に運ばれたと後に聞きました。その時「アルコール依存症」と診断されましたが認める事は出来ませんでした。今回は、飲み方がまずかったんだ、体調が悪かったんだ、この病院から嘘をついてでも出て家に帰って一杯飲んで落ち着きたいと思いました。しかし、保護入院なので保護者になっていた妻の許可が無ければ退院出来ないと聞かされ、仕方なく入院生活を送る事になりました。入院中、仕事復帰は出来ないかもしれないと将来への不安を感じていました。と同時に、「アルコール依存症」ではない理由も色々考えていました。私の酒の飲み方も知らない主治医が、何故「アル

新会長挨拶と体験談



断酒は仲間と共に

加賀 純雄
(鴨方支部)

二〇二〇年十二月二十七日に開催した林病院OB会総会で、OB会会長に選任されました岡山県断酒新生会鴨方支部の加賀純雄です。

私は6年前林病院北2病棟を退院したOBです。入院は自分の意志ではなく、保護入院でした。中2病棟の保護室でマットに手足を縛られ、紙おむつを履かされ、足首に点滴を打たれた状態で目を覚まし何が起きているのか理解出来ませんでした。

私は、林病院入院の一ヶ月前、脑梗塞で地元の病院に入院し、仕事復帰の前日酒を飲んでいて意識が無くなり救急車で林病院に運ばれたと後に聞きました。

その時「アルコール依存症」と診断されましたが認める事は出来ませんでした。今回は、飲み方がまずかったんだ、体調が悪かったんだ、この病院から嘘をついてでも出て家に帰って一杯飲んで落ち着きたいと思いました。

しかし、保護入院なので保護者になっていた妻の許可が無ければ退院出来ないと聞かされ、仕方なく入院生活を送る事になりました。

入院中、仕事復帰は出来ないかもしれないと将来への不安を感じていました。と同時に、「アルコール依存症」ではない理由も色々考えていました。私の酒の飲み方も知らない主治医が、何故「アル

「アルコール依存症」と診断出来るのか誤診だと思ったりもしました。

中2病棟に一ヶ月、北2病棟に三ヶ月半居ましたが、入院中の半分はそんな事ばかり考えていました。アルコールプログラムを受けても、飲酒当時の様子を話させようとしている事に「何を言わせたのか、私にアルコール依存症だと言わせたのか、入院患者と私は違うんだ」とスタッフの話を斜に構えて聞いていたもので、入院患者、スタッフとは殆ど話をしませんでした。

北2病棟での入院生活が二ヶ月を過ぎた頃から同年代の入院患者と少しづつ話をする様になりそれぞれ酒の飲み方、考え方・生活・家族との関係等、身近にいる家族にも話をする事が出来なかった話をする様になっていました。話をした皆が、酒を止めようと思うが止められない、どうにかしたいが何をすればいいかわからないと思っていました。私も皆と一緒に「アルコール依存症」なんだと認めざるをえなかったし「酒の飲めない体になつたんだ」と自覚する事が出来ました。

断酒は、自助グループへの参加が不可欠と北山先生に勧められ入院中に岡山県断酒新生会に入会しました。入院時、色々話をした仲間も断酒会に入会し、例会に参加し飲酒当時の事、これからの事を話し合いながら共に断酒を続けています。

入院した時は、嫌で嫌で仕方が無かった林病院ですが、今は断酒する事で人間らしい生活が出来ています。林病院に繋がった事に感謝しています。

林病院OB会は、林病院に繋がり断酒を志す酒害者の会です。多くの仲間と支え合いながら回復の道を進んでいきたいと思えます。

新役員の紹介

新しい役員の方々も入られて、OB会は気持ち新たにスタートしました。

三役以上の新役員を紹介いたします。

◎会長

加賀 純雄 (鴨方支部)

◎副会長

松本ちどり (岡山東支部)
山下 仁志 (岡山東支部)

◎会計

三輪 英俊 (新見支部)

以上



一年表彰受賞者の紹介

林病院OBの完全断酒一年本部表彰の受賞者(二〇二〇年四月以降)を紹介いたします。

◎六月二十日受賞

水本 達也さん (岡山東支部)
矢野企三江さん (岡山東支部)

熊代 泰行さん (岡山北支部)

◎七月十八日受賞

高嶋由美子さん (岡山東支部)

◎八月十五日受賞

藤本 光英さん (御津赤磐支部)
津川 雄一さん (岡山東支部)

安木 功さん (岡山東支部)

◎十一月二十一日受賞

小川千恵子さん (岡山東支部)

以上の皆さんです。おめでとうございました。これからも例会出席で一緒に断酒継続頑張りましょう!!

コロナ禍に思うこと

北2病棟主任 牧 いずみ

コロナ禍のため、院内例会やOB懇談会が開催できなくなって、一年が経とうとしています。この間、アルコール病棟でのプログラムも、大きな制約を受けることが余儀なくされています。

私たち治療者は、断酒の継続に最も有効な方法は断酒会回りだと考えています。が、入院患者様を断酒会につないでいくことは、今も昔も至難の業です。

しかし、林病院には、とても心強い組織があります。それは、アルコール病棟OB会という会です。OB会とは、昭和五十六年に発足し、現在、三十名程度の方が登録されています。アルコール病棟での治療の経験があり、断酒を志していることが会員資格になっています。会員のほとんどが断酒新生会の会員ですが、それは必須条件ではありません。多少の失敗はあっても、断酒継続に向けて頑張っている人たちです。

OB会のメンバーは、林病院院内例会の運営や、ARPPのOB懇談会に参加していただいています。年数回親睦会を開いて会員同士の交流も深めています。会員同士が励ましあって断酒継続の糧にするのももちろんのこと、情報交換を行い、新入会に繋がりそうな人とか、気にかけてあげてほしい人に伝えて一緒に例会に行ってもらったりとか、退院後声掛けをしてもらったりとか、いろいろご尽力いただいています。

その、私たち自慢の会が、これまでのように入院患者さんと関わってくれるこ

とが出来なくなり、直に、話を聴いたり、質問に答えてもらったりする機会がなくなっています。その繋がりを一番大切に考えていた私たちにも、発想の転換が求められている気がします。もちろん、元のコロナを気にしない世の中が戻ってくるのが一番ですが、「できるか、できないか」ではなく、「何をどうやったらできるのか」を考え、今を乗り切っていきたいと考えています。こんなコロナ禍でも、病棟とOB会との絆を絶やささないようにしていきたいです。

OB会よりお知らせ

コロナ禍のため昨年三月より院内例会、北二病棟のOB懇談会が開催出来ない状態が現在まで続いています。しかし、OB会では定期的に役員会を開催して、再開されればいつでも対応出来るように準備をさせていただいております。また、親睦を深めるための「春のレクリエーション」年末の「忘年例会」等も予定しております。

次号は、令和二年度に完全断酒一年表彰を受賞された方々を中心として体験談特集を予定しております。少しでも読者の皆さんの断酒継続の糧になればと思います。そしてコロナ禍の中での機関紙が北二病棟・患者様とOB会をつなぐパイプになればと願っております。より良い紙面にしてゆくため、お気付きの点がございましたらよろしく御指導、御鞭撻をお願い致します。

